

令和5年(ワ)第977号 除籍処分無効確認等請求事件

原告 東郷ゆう子 こと 角本裕子

被告 日本共産党中央委員会 外3名

意見陳述書

令和5年9月12日

神戸地方裁判所第4民事部合議係 御中

東郷ゆう子 こと 角 本 裕 子

この度、私が日本共産党と味口俊之神戸市会議員を提訴しましたが、ここに至るまでの思いについて述べさせていただきます。

私が日本共産党と出会い、入党したのは38歳の時でした。

それまで、日本人でありながら日本の政治を知ろうともせず、制度に不満を抱えるだけで特に自分から何か変わろうともせず生きてきました。

日本共産党と出会い始めて自分が住んでいる地域の自治体や兵庫県の制度を詳しく調べたり国の制度に対しても同じように調べたりするようになりました。

そして同時に私は、日本共産党の言う事を鵜呑みにしてしまい、どんどん政府や他党の政治家を嫌いになっていきました。

ですが、私の中でまた、大きな変化が生まれました。

40歳で初めて統一地方選挙に立候補したことがきっかけでした。

それまで2年間ため込んできた政府への不満やおかしいと思うことを訴えられる！と意気込んで統一地方選挙に臨みました。

その中でまた、今まで知ろうともしていなかった現実を知ることとなりました。

それは、日本共産党が言う事が全て正しい訳ではないという事です。

選挙に出たことで初めてちゃんと他の政党の方々のお訴えや実績を知り、自分が思い込みにより行動していたと自覚しました。

そして、私がそうして外に目を向けていることは日本共産党側も気が付いていたように感じます。

だから、この一連の数々の嫌がらせにも近いパワハラや、私の意見の封殺が行われてきたのだと、今は確信をもって言えます。

思い返せば、本当にいろいろおかしいことばかりでした。

日本共産党に入党する事そのものは、私にとってはとても意義のあることだと思っていましたが、入党後、「そんな事も知らないのか」とよく言われました。その都度、私は「何も知らないで生きてきたって何回もいったのに、だから教えてと言っているのに何でそんなに馬鹿にされるの？」と何度も何度も思いました。

それは、今回日本共産党の外に出て、世間に訴えた時にも起こりました。

「共産党員は馬鹿じゃん」「最初からそんな事わかっているやん」など、私がかかって日本共産党員になったという思い込みでさんざん馬鹿と言われました。

なんで誰もわかってくれないの？私は日本共産党にこんなにひどい目に合わされたのに・・・

という思いが浮かんできたのは正直にお話した上で、改めて思うことは「私の被害」は「私以外の誰も」興味がないという事です。

それでは、なぜこの裁判に挑むのか。

それは、やはり日本共産党が私にした事が不当だと酷いことだと考えるからです。

私個人の人権を軽視し、利用した。しかもそれを私が悪いことをしたからだと嘘までついて自分たちを正当化して私や私の家族の生活までをも脅かされた。

だから私は声を上げなければいけないと考えます。

正直に言うと、怖いです。

それまで信じてきた、弱者救済・正しいこと。が本当はずる賢くグレーなやり方だったと知った時、私も罪に問われるかもしれないと思い、黙っていたほうが賢明なのかと頭を過りました。

逃げ出したいと何度も思いました。

それは、勇気を出して世間に公表した今でも「なんでこんなに辛い思いまでして戦う必要があるのか？」と何度も考えます。

ですが私は逃げたくありません。今まで楽な方に逃げて、何もかもを他人のせいにして政治のせいにしてきた自分への責任だと思えます。

だから皆さん、私の事を「騙されて利用された馬鹿なやつ」「本当はわかっていたのに馬鹿な振りしているだけのズルいやつ」「人のせいにしてきた罰が当たっただけ」など、いくらでも言ってくれてかまいません。

それを発するとき「自分」はそうじゃない。と思えたら、私のように利用されなくて済むからです。

ただ、「私は騙されない」とは考えないで下さい。

今度はその思い込みが自分の足かせとなり自分の中に芽生えた小さな疑念を無視し盲目にしていってしまいます。

今思い返せば、私にも何度もそんなタイミングがありました。

例えば、この裁判でも訴えている「ため書き」の件でもそうです。

勝手に捨てられて悲しくて怒っている自分の中の感情を押し殺し、「味口の指示やから

私に言われても知らん」と言われたときに反論せず泣くだけで済ましてしまった。

あの時に自分を信じて抗議すれば、こんな事にはならなかったしまだ間に合って、くしゃくしゃになっても私宛の大切なため書きを取り返せたかもしれない。

結局自分の中で線引きをして諦めてしまったのは私自身です。

日本共産党にいるとき、同じような事が何度も何度もありました。

会議の時、宣伝活動の時、訪問に行くときの車内、そして私の場合は職場でも。

2年間、これが当たり前だと思い込み、小さな疑念に蓋をし続け自分を騙して過ごしてきた結果が今です。それは十分に自覚しました。

例えば、味口市議が、王子公園を守ると訴えていながら、いざ支部会議の場では「王子公園のことなんてぶっちゃけどうでもええねん」「俺らは、みんなの関心があることを使って、神戸市を攻撃することやから」「いつまでそんな低い目線で物言うとるねん」と言い放ったことは、今思えばこれほど有権者をバカにした発言はないのですが、味口市議の考えを鵜呑みにしてしまった私も責任を感じます。

ですから私は、自覚した上でやはり日本共産党や味口市議のしていることは本当に恐ろしくて悪いことだと言います。

いくら綺麗な言葉を並べても、あなた方がやっていることは弱者を騙し民衆を誘惑して政府批判していると思わせかけ自分たちを正当化しているだけの茶番です。

何度か私は味口市議や当時の私の上司である日本共産党員の方に「なぜ他党の批判ばかりするのですか？」と聞いたことがあります。

答えはすべて同じでした「日本共産党は野党だから」

「野党は批判するのが役目なのですか？」という質問に対してもたいてい同じ答えで「野党は政府がおかしなことをしないように見張るのが役目」と言われました。

その時、心の中では「見張るのは批判することなの？」と疑問を持ちましたが、相手が現職の市議や上司であったため私はそれ以上聞くのをやめてしまいました。聞くのをやめた時に考える事までやめてしまったことを強く反省します。

それをやめてしまったせいで、私も日本共産党公認候補という騙す側の一端を担ってしまいました。

この事実は何をしても消える事ではありません。

これからも私は、騙された上に文句を言っているだけの元候補者のレッテルを貼られたままでも、それを受け入れ常に自分を戒めながら、真実のみを語り続けるところにお誓いし、私の陳述とさせていただきます。ありがとうございました。

以上